

# 桜風 (NO7)

三島市立錦田中学校 2016.11.1

早いもので、11月に入り今年度も折り返しとなります。桜風祭の練習で培われた絆で、3月にはこのクラス・学年でよかったと思えるように、よりまとまったクラス・学年を目指したり目標達成に向けて突き進んだりして行ってほしいと思います。また、学校では10月11日より後期が始まり、各クラスでは委員会や係のメンバーが入れ替わり、気分新たに活動がスタートしています。

## ○金澤翔子さんの揮毫と、母泰子さんの講演に多くの保護者や地域の方が参加しました (はごろも夢講演会・豊かな心と希望の種を咲かせる会)

10月27日(木)に、ダウン症の天才書家金澤翔子さんと、その母親の泰子さんをお招きし、講演会を開催しました。翔子さんは、大河ドラマ「平清盛」の題字を手がけたり、全国で個展や揮毫を行ったりしているため、保護者や地域の方の関心も高く、当日は200人近い方が来場されました。

翔子さんが14歳の時に亡くなられたお父様が「翔子は書道が上手いから、20歳になったら個展を開こう」というお話をされたことが、揮毫を始めるきっかけとなったそうです。翔子さんが18歳のとき、作業所へ通う予定でしたがトラブルがあり通えなくなってしまったときに、お母様の泰子さんがその言葉を思い出し練習を始め、お父様の言葉通り20歳で個展を開いたそうです。翔子さんの書いた字を多くの人に見てもらいたいという気持ちで開いた個展でしたが、翔子さんの字を見て涙を流し感動される方がたくさんおり、それが評判となり全国各地で揮毫と講演を始めるようになったと言うことでした。

実際、翔子さんが字を書き始めると、周りを取り囲んでいた生徒や地域の方々も引きつけられるように筆の動きを見つめていました。書き上がった「**共に生きる**」という字は、とても力強く、確かに人を引きつける力がありました。

お母様の泰子さんの講演では、翔子さんの誕生のことや生徒・保護者へのメッセージが語られました。

翔子さんは40歳を過ぎてから授かった子どもだったので、子どもができた時には本当にうれしかったそうです。しかし、生まれてきた子どもがダウン症であると聞かされたときには、どうしたらよいかとても悩み、生まれてきた子と一緒に死ぬことばかり考えていたそうです。当時はダウン症について誤解が多く、医師からは「知能がなくて歩けない」とまで言われ、その頃の泰子さんの日記には、どのようにしたら死ぬるか、死ぬためのいろいろな方法がたくさん綴られていたそうです。

しかし、クリスチャンの父親が、翔子さんの障害を受け入れ共に生きる覚悟を決めたことで、泰子さんも翔子さんと共に生きる決心がついたということです。

泰子さんは講演の中で生徒たちに、「**自分の持っている力を信じてほしい**」、「**苦しいときにこそ頑張れば道は開ける。悪いことの後には必ずいいことがある。**」、「**生きていれば絶望はない。どんなに暗い闇の中にも、頑張っていれば必ず光はある。**」と、壁にぶつかったときも努力することで必ず道は開けるというメッセージを送ってくれました。また、参加された保護者・地域の方に向けて、「子どもができることを親ができないと思い込んでいる。子どもの可能性をつぶさないようにしてほしい。」というお話をされました。また、翔子さんの各字が見た人に感動を与えるのは、「上手く書こうという思いはまったくなく、みんなに喜んでほしいという思いだけで書いている。名誉とか気にすることもなく、無心で書いているから感動を呼ぶ。」というお話をされていました。

講演の最後には、翔子さんが大好きなマイケルジャクソンのダンスを披露してくれました。ダンスには教師や生徒代表も前に出て一緒に踊り、講演を盛り上げて終了となりました。



## ○子どもたちの「学びの習慣化」のために～全国学力学習状況調査より～

今年度の全国学力学習状況調査の結果が、9月下旬に発表されました。今年度の3年生は、3年前(小学校6年生時)に実施した全国学力学習状況調査で国語A(知識を問う問題)で、全国最下位となり話題となった学年でした。しかし、今年度行われた結果は新聞にも載りましたが、各教科とも全国で上位にあり、本県の生徒は確実に学力が身につけていることがわかりました。

本校の生徒の結果も良好で、学力は確実に身につけていることがわかりました。結果については桜風10月号でも触れましたが、再度結果について報告したいと思います。



### 【国語】

国語A(知識を問う問題)は全国平均とほぼ同じ程度で、国語B(活用に関する問題)は全国平均よりやや高い傾向にありました。

読む能力を問う問題は、毎朝の読書の効果が出ていると思われ、得意としている傾向にありました。反面、書く能力を問う問題を苦手としている傾向にありました。国語に関しては、質問紙の中の「国語の勉強は好きですか」「国語の勉強は大切だと思いますか」という質問に対して、「当てはまる」という回答をした生徒の割合が低いことも気になりました。

### 【数学】

数学A(知識を問う問題)、数学B(活用に関する問題)共に、全国平均よりやや高い傾向にありました。どちらも、「計算」「図形」「資料の活用」に関しては得意としていますが、「関数」を苦手としている傾向にあります。生徒質問しの中の「数学の勉強は好きですか」「数学の勉強は大切だと思いますか」「数学ができるようになりたいですか」という質問に対し、「当てはまる」と回答している生徒の割合が高いことから、数学の結果が良好だったことがうかがえました。

### 【生徒質問紙】

<よい点>

- 「自分にはよいところがあると思う」「将来の夢や目標を持っている」という項目に対する「当てはまる」と回答した生徒の割合が高いことより、本校の生徒は自己肯定感が高い。
- 「学校へ行くのは楽しいと思う」「学校で友達に会うことは楽しいと思う」という項目に対する「当てはまる」と回答した生徒の割合が高いことより、全体的に良好な友人関係を築き充実した学校生活を送っている。
- 「家の手伝いをしますか」「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」という項目に対する「当てはまる」と回答した生徒の割合がとても高く、家族や地域の一員であるという自覚をしっかりと持っている。

<悪い点>

- 「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日同じくらいの時刻に起きていますか」という項目に対する「当てはまる」と回答した生徒の割合が低いことから、規則的な生活が身につけていない生徒が多いと思われる。
- 「普段(月～金曜日)1日当たりどれくらいの時間テレビゲーム(コンピューターゲーム、携帯型のゲーム、携帯電話やスマホを使ったゲーム)をしますか」という項目に対して「4時間以上」と答えた生徒の割合がとても高い。普段からゲーム中心の生活になっている生徒が多い。
- 「新聞を読んでいますか」という項目に対する「当てはまる」と回答した生徒の割合が少ない。新聞報道された今回の結果分析の中で、新聞を読む生徒は読まない生徒よりも正答率が高いという結果が報告されている。特に3年生は、これからは新聞に目を通し、世の中の動きを知っておくことは必要となる。

学力を向上させることだけでなく、充実した学校生活を生徒が送れるようにするためにも、今回の結果を有効に生かしていきたいと思えます。

## ○PTAバザーお知らせ

11月5日(土)の午後1時30分より、PTAバザーが開催されます。現在、PTA厚生部の皆さんが準備を進めてくれています。当日は、生鮮食品、雑貨、生活用品などの販売をします。また、生徒の頑張りがわかるように、体育館内には部活ごとの活動写真や賞状・カップの展示もあります。3年生は中体連で素晴らしい結果を残してくれましたが、3年生からバトンを渡された2年生も、各部大会で好結果を残しています。ぜひ、バザーに足をお運び、生徒の頑張っている様子も合わせてご覧ください。

